

船を降りたら 彼女の島



お父さん、
お父さん、わたし……



監督・脚本 磯村一路「がんばっていきまっしょい」

木村佳乃 大杉 漣

大谷直子 照英 佐々木蔵之介 小山田サユリ 村上 淳 林美智子
桑原和男 烏丸せつこ 村上シヨージ 桜むつ子 六平直政 鏡田俊樹 ベンガル

エグゼクティブプロデューサー:玉置 泰 プロデューサー:梶井省志 小形雄二 佐々木芳野 撮影:柴主高秀(J.S.C.) 照明:長田達也 録音:郡弘道 美術:新田隆之 編集:菊池純一
助監督:吉村達矢 製作担当:土本貴生 ラインプロデューサー:堀川慎太郎 プロダクションアシスタント:小笠原都衣 音楽:押尾コータロー ヌイーンテーマ:「木もれ陽」(東芝EMI)
製作:えひめ映画製作委員会 製作プロダクション/配給:アルタミラビクチャーズ 配給協力:東宝

<http://www.kanojo.jp>

わたしを育み、 新しい旅立ちをそっと見送ってくれる、 愛しいものたち……

帰郷。そのことばは、暖かさ、せつなさ、ほろ苦さ、小さな痛み、さまざまな思いを私たちに与えます。このものがたりで描かれるのは、ひとりの大人として最初の転機に立つ若い女性の、帰郷と旅立ち。自由にかつ自立してしなやかに人生を送る彼女がふと、立ち止まった時に心にかかるもの…それは、親であり、故郷であり、それらすべてを含んで彼女自身の中にある記憶。島での穏やかな時間を過ごすうちに、それらは寄せるさざなみのように彼女に作用してゆきます。「今、私がここに生きている。」ということ強く心に刻み、新しい人生に船出していくために。

監督は、愛媛を舞台に思春期の少女たちの一瞬のきらめきを余すことなく描いた秀作『がんばっていきまっしょい』の磯村一路。ひとりの女性の心の旅を、鮮やかに織りなされたタペストリーのように丹念に描き、静かな感動を与えてくれます。主人公久里子にはテレビ、映画、舞台と幅広い才能を開花させる木村佳乃。娘を持つ男親の心の機微を寡黙に演じるのは、邦画界になくはならない存在の名優・大杉漣。そして娘と夫を見守る母親を見事なまでの自然体と息づかいで見せてくれるのは実力派女優・大谷直子。久里子の幼なじみ・健太には「筋肉番付」でブレイク後、俳優としても注目株の照英。さらに久里子の恋人・充生に「ナビイの恋」「とらばいゆ」の村上淳、本作品の舞台となる愛媛県出身でもある林美智子や村上ショージらも脇を固めています。着く、橙色に、幻のように、と刻々と表情を変える豊かな瀬戸内。情感溢れる押尾コータローのアコースティックギターの音色が溶け合い、忘れがたく心に残ります。

船を降りたら 彼女の島



隆司くん…忘れんどう
うちも鈴持っどくけん

STORY

東京の出版社に勤めている久里子(木村佳乃)はカメラマンの充生(村上淳)との結婚を決め、故郷にすむ両親に報告するために、瀬戸内海に浮かぶ「瀬ノ島」という小さな島を一人、2年ぶりに訪れる。生まれ育った懐かしい島でしばしの休暇を過ごす久里子。教師を退職した父・周三(大杉漣)は、母・泰子(大谷直子)と廃校になった小学校を改築して民宿「波の穂」を営み、遠くで暮らす娘をいつも心に思い暮らしていた。娘の突然の帰省に、何かあったのでは、と気がかりでも聞かずにいる周三。「お父さん、私、私…」久里子もまた、なぜか伝えるべき言葉を飲み込んでしまう。そんな特別な感慨を秘めた久里子の里帰り、いつしか幻のように蘇る幼い頃の記憶に導かれ、自分の軌跡を顧みる心の旅となってゆくのだ。島に伝わる伝説の鈴に重なる甘く切ない幼い恋の記憶、そこで語られたまだ見ぬ「幻の町」、刹那的に脳裏に浮かぶ亡き祖母との船旅。久里子は幼なじみの健太(照英)とともに初恋の人・隆司(村上淳)の消息を尋ねる小さな旅に出る。しかし、13年間という時の隔たりを経て、久里子は思いもよらぬ結末を知るのだった。

35ミリカラー・ヴィスタサイズ・ドルビー-SR/112分



鈴の音に導かれ”感動”のロードショー!! 特別鑑賞券 1,300円税込 絶賛発売中!!
〈当日一般¥1,800 / 学生1,500〉

東京 2/15(土)より
 JR有楽町駅日比谷口有楽町ビル内 03
有楽町スバル座 (3212) 2826
 連日 11:30 1:55 4:20 6:45

大阪 2/22(土)より
 梅田・HEPナビオ8F 06
ナビオTOHOプレックス (6316) 1312
時間表等詳細に関しては劇場にお問合わせください